

霊水と共に

発行 法華寺
No.33
2026.3
河南町加納 247
☎0721933023

まいてら法華寺

検索

寄り添いの寺 法華寺

検索

四月 開山忌法要です

當山、法華寺の開山の云われは、室町時代の永享年間(約五百八十年前)の干ばつを救ったご霊水の湧出です。それは、南北朝戦乱の戦死者慰霊のために、この南河内を訪れていた日隆聖人の法力によるもので、以来、法華寺は「寛のご霊跡寺院」として信仰を集めてきました。

湧き出し口の水原堂から、境内の水槽まで約八十メートル。その石造りの水槽には、「天保三年」と記されており、約二百年前に設置されたことがわかります。年月が経ち、石の隙間、割れ目から、少しずつご霊水が漏れるようになり、ここ数十年、何度も修復を重ねましたが、状態が改善されず、この度木製の水槽を内側に入れて、漏水を防ぐことになりました。

現在、各業者さまと、打合せをしながら、事業を進めております。開山忌までには、修復を終えたいと考えております。



「妙法蓮華経(法華経)」とは

みょうほうれんげきょう ほけきょう

法華宗・日蓮宗では、「法華経」を最も大切な経典として、写経し、読み、理解し、教えを広げ、その信仰を保ち続けます。

その根本思想の一つは、「永遠の存在であるお釈迦様」が、常に我々を見守り、導こうとしてくださっていること(久遠実成)。もう一つは、動物植物、大地自然の全てに命と仏の心が在り、平等に存在する命の現れであるということ(諸法実相)です。

この思想の上に、我々一人一人の人間には、「悟りの種」が宿っており、その種は、「蓮の種」になぞらえられて、苦しい世の中(泥の中)でこそ、美しい「蓮の花」が咲くという譬えが法華経の真髄です。

「法華経」は一章から二十八章に分かれており、二章、十六章、二十一章は、特に大切です。



「唱題行」

しょうだいぎょう

法華経を信じる者の行い(修行)として、お経を読むというものがあります。「お経の意味や内容を知りたい方」には、「法華寺オリジナル経本」を無償配布してまいりました。配布は、現在六百冊を超えています。また別に、お経を「音としてとらえることにより、宗教的な感興が起こる方」もおられます。その法華経を読む中で、一番大切なことは、お題目を唱えること(正行)だと、日蓮大聖人は述べられています。

「唱題行」とは「南無妙法蓮華経」のお題目を一心に唱え続ける修行で、法華宗や日蓮宗で、最も大切とされている修行法です。太鼓や木しよの音に合わせて何度も繰り返して唱えることで、仏様との一体感や安らぎを得るものです。

毎年二月に、當山では、宗門若手僧侶による「唱題行」を行っております。

